

外食、留学生バイト争奪

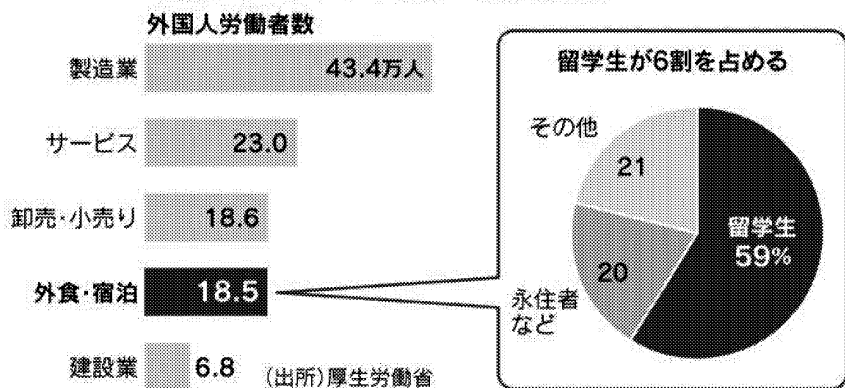
外食産業の現場で、留学生アルバイトの争奪戦が過熱している。留学生の受け入れが絞られる一方、4月に始まった新在留資格「特定技能」の認定も進まず、採用環境が厳しくなっているためだ。すかいらーくホールディングス(HD)な

「特定技能」認定遅れ ■ピザ審査厳しく

「今年に入り留学生の採用が一段と難しくなった」「シフトの穴を埋められない」――。外食産業では悲鳴が上がる。厚生労働省によると宿泊・飲食サービス業の全就労者数は2018年平均で416万人。外国人労働者は18万5千人で全体の5%弱を占め、6割がバイトで働く留学生だ。東京都では外国人の比率が約18%に達する。

慢性的な人手不足への対策として、政府は4月から介護や建設など14分野で外国人の単純労働を認める特定技能の制度を新設。飲食では5年で5万3千人の受け入れを

留学生バイトの不足が一段と深刻に



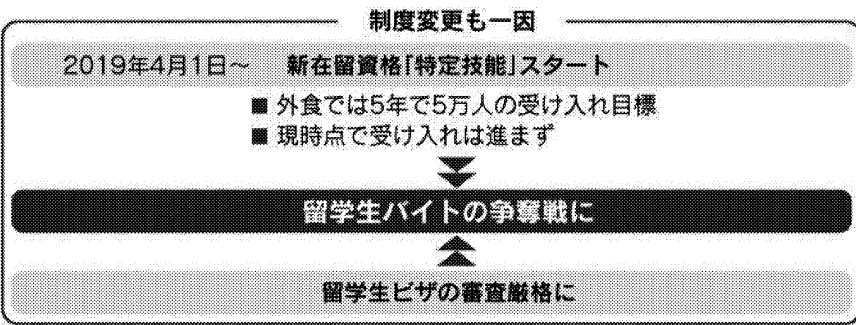
すかいらーく 紹介料を支給 テンアライド「語学」手厚く

指すが、認定に時間がかかり実際の受け入れはほとんど進んでいない。一方、出入国在留管理庁は留学生の審査を厳格化している。日本語学校



テンアライドは時給を払いながら日本語を教え採用できる対象を増やす(都内の「テング酒場」)

ど各社は、口コミによる紹介制度や日本語研修などあの手この手で留学生の確保に走る。外食の現場は、外国人の働き手が存在感を増す日本の縮図でもある。



リクルートジョブズ(東京・中央)によると、飲食系アルバイト募集時賃金(三大都市圏)は8月の平均で1027円と、2年間で5%超上がった。すかいらーくHDは最低賃金が3%の伸びを続けた場合、人件費が年20億〜30億円増え続けると試算する。

留学生は出入国管理法で週28時間しか働けない規定がある。しかし事業規模の小さなチェーン店や個店では労務管理がおろそかになり、ルールが

働きやすさ改善が急務

有名無実化しているケースも少なくない。安定した店舗運営には自動化などの生産性向上に加え、働きやすさ改善など外国人に選んでもらえる職場環境の整備が不可欠だ。

人材サービスのウィルグループは、外国人向けの労務管理システムを開発した。スマートフォンで在留カードを撮影し自動で文字情報に変換。在留資格や就労時間を一括して管理する。違反しそうな場合にアラートを出す。

「築地銀だこ」を運営するホットランドをはじめ、1千店舗で導入されたという。「外国人の不法就労には企業も責任を負うため、対策が必要だ」(ウィルグループ)

特定技能の制度がスタートしたとはいえ、日本の「食」にまつわるビジネスは外国人留学生に頼っている部分が大い。今後、政府や企業が一体となった環境整備や制度運用が欠かせなくなる。(江口良輔)

で作る団体によると、ベトナム人への留学ビザの交付率は18年10月に9割近かったが、足元では5割まで低下。ネパールやバングラデシュからの留学生では1割を割る水準まで下がった。留学名目で来日し就労する外国人も多く、「審査が厳しく

なっている」(外国人向けの人材紹介会社トップ)という。

居酒屋「テング酒場」を展開するテンアライドは早くから外国人採用を積極化した。19年に初めて採用数が前年を下回った。芳沢聡人事部長は「来日時だけでなく、いま日本にいる留学生もビザの延長が通りにくくなっている」と話す。

同社は今月中旬、都内の研修センターで時給を払いながら日本語教育に乗り出す。これまでの研修は技術面で2日程度だったが、今後は時給を払い1〜2週間かけ日本語も学べるようにする。

「日本語のレベルが足りず採用できなかった外国人も戦力化する」(芳沢氏) 考えた。

約2600人の外国人が働くすかいらーくHDは、従業員に知人を紹介してもらいリファラル制度を導入。紹介者には報酬を支払う仕組みで、今年だけで約400人を採用した。大川原利明執行

役員は「ベトナム人やパールの紹介が多く、同じ出身国の人が働くことで定着率も高くなる」と話す。10月には、外国人従業員向けの専用相談窓口も開設した。

幸楽苑HDやゴーゴーカレーグループ(東京・千代田)は、メールなどを通じて知人や友人を簡単に紹介できるリフカム(東京・渋谷)のシステムを導入した。ゴーゴーカレーではベトナム人のアルバイトが計54人を紹介し採用につながったケースもあるという。

特定技能の本格始動をにらみ、海外での採用を模索する動きも出てい

居酒屋大手のワタミは、人材会社ITbookホールディングスとシカポールに共同出資会社を設立した。周辺国の日本語学校などと組み、日本語教育や技能試験対策などを提供する。いち早く人材を確保し、店舗経営を優位に進める狙いだ。